



集会では今後のOPの活動に向けた課題などが活発に話し合われた

## 福祉オンブズパーソン実践・交流集会開催される

かながわ福祉オンブズパーソン協議会準備委員会による「福祉オンブズパーソン（以下、OP）実践・交流集会」が、九月二十三日、県社会福祉会館で開催されました。

県内では、福祉施設利用者の権利擁護を目的とした十二のOPグループが先駆的な活動を行っていますが、準備委員会では、この活動から見えてきた制度的・構造的な障壁を、横断的なネットワークによって解決できるよう、協議会の設立に向け、昨年五月から議論を重ねてきました。

今回は、OP一人ひとりの資質を高めていくことの必要性から、その知識や経験を分かち合うこと

を目的に、OPの意識調査（昨年度実施）によって浮き彫りになった課題や具体的な事例をもとにディスカッションを行いました。

集会では、利用者本人の意向と周囲の意向に衝突がある場合の相談に対する解決の事例などが報告されました。その一つには、知的障害者グループホームでの生活を希望している、入所施設利用者の事例が挙げられました。施設や家族が懸念する余り、希望をなかなか実現できなかったこの事例では、OPが「温泉に行きたい」などの身近な願いに対応し、少しずつ本人の持つ力を引き出すとともに、施設や家族の方々が、その方が地域で生活できるよう体制を整えた結果、当初の希望を実現することができたというものでした。

今回の集会では、これらのネットワークづくりの大切さに加え、利用者の代弁者としての価値や理念を創造し共有していくことの重要性が示唆されました。

準備委員会では、来年度の協議会の設立を目指し、今後も研修会や講演会などの活動が行われる予定です。

◆ 同準備委員会（Sネット内）  
0466-81-9218

## 読者の声

—地域の学校であって欲しい—

先日、家族でテレビを見ていたら、突然画面に私や兄弟が通っていた地元の小学校が登場して、思わず歓声を上げてしまいました。

ユニークな取り組みをしている学校をシリーズで紹介しているものだったと思いますが、画面には懐かしい学校の様子が次々と映し出されていきます。私たちは、その一つひとつ食い入るように見つめながら、「この校舎懐かしいね」とか「この下駄箱覚えてる！」などと興奮しながら話し合っていました。

でも、次の映像に、家族の雰囲気は一転してしまいました。私たちが登校していた頃は、全校生徒が千人を越えていた小学校も、児童数の減少とともに、空き教室の活用に悩んでいたそうで、その一部を子どもたちの交流室に改造したのだそうです。木材をふんだんに使った隠れ家のようなコーナーや学年を問わず、皆が話したり遊んだりできるとても素晴らしい交流室の様子を、私たちは狐につままれたようにポカンと口を開けて見つめるばかりでした。

『少子化』。我が家に通学児童がいなくなり、私たち家族は、その問題の深刻さに気付くことなく過ぎてきてしまいました。改めて、教育の現場は大変な思いをしているのだなと痛感させられました。

同時に、変り行く学び舎の姿に、寂しさを隠せなかったのも事実です（近隣の方や通学児童がいるご家庭には、何らかのご案内があったのかもしれませんが）。

子どもでなくても、通学児童がいない家庭であっても、頑張っておられる先生方を応援し、私たちの思い出のある学校がより良く変わっていく姿を温かく見守りたい。そんな思いを汲んで、地域との交流を絶やすことのない学校であって欲しいと心から思います。

（楓）

### ▶ 投稿をお寄せください ◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844  
横浜市神奈川区沢渡4-2  
FAX：045-312-6302  
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp  
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと